

科目	特長
ミクロ経済学	<p>ミクロ経済学の基礎理論を学びながら、経済学的考え方を身につけることを目標とする。周知のように、私たちが暮らしている自由主義経済(市場経済)では、市場メカニズムが重要な役割を演じている。ミクロ経済学は、市場のはたらきを分析するための手法である。そこで、この授業では、基礎的な概念からしっかりと勉強し、市場のはたらきについて理解を深め、私たちの身近にみられる問題について経済学的に分析するための基礎的な力を養いたい。</p> <p>授業では、テキスト(伊藤元重著『ミクロ経済学(第2版)』日本評論社、2003年)のPart 1とPart 2にしたがって勉強する。まず、ミクロ経済学のもっとも基本的な考え方である需要と供給の理論について勉強する。具体的には、(1)需要曲線・供給曲線を用いて、価格の変化に関する簡単な分析を行いながら、市場メカニズムのエッセンスについて学び、次いで、(2)需要曲線とその背後にある消費者行動、(3)供給曲線とその背後にある生産者の行動について詳しく説明する。そして、(4)市場経済における資源配分メカニズムについて考察し、この経済体制のもつ特徴について理解を深めたい。</p> <p>授業の後半(第8週目以降)では、「一般均衡理論」の基礎を学びながら、市場のはたらきについてさらに深く考察する。いうまでもなく、財やサービスの生産に利用できる資源には限りがある一方で、われわれの欲望には限りがない。したがって、「限りある資源を用いてわれわれの満足を最大にするには『何を』『どれだけ』『どのように』生産し、いかに分配するか」が大きな課題となる。市場経済では、価格の変化を通じて、個々の消費者や企業の行動を調整し、経済全体として効率的な資源配分へと導くメカニズムが内在されているけれども、この点について、テキストのPart 2にしたがって勉強する。具体的には、まず、消費者行動の理論として、(1)予算制約のもとでの効用の最大化、(2)価格や所得の変化が必要に及ぼす影響について解説する。次いで、(3)企業の利潤最大化行動についてとりあげ、(4)消費者や企業の行動を集約する形で需給を調整する価格メカニズムと、ここでの資源配分の状態について考察する。</p>
マクロ経済学	<p>講義では、まず短期のマクロ経済の構造を国民所得(あるいは国民経済計算)勘定体系の理解からはじめ、単純なケインズ理論、現代の主流派マクロ経済学にまで発展した理論構造を正確に把握することに重点が置かれる。後半では分析の次元を長期化して、なお国際的な広がりの中の国民経済を分析するために、経済成長・景気循環や開放マクロ経済学を取り上げ、技術進歩と生産性の変化、為替レートや経常収支の変動をも考察する。</p>

◇経済情報学科 主要科目の特長

科目	特長
経営学総論	<p>私たちを取り巻く社会は、目まぐるしく変化している。とりわけ20世紀に大きく進展した情報化・国際化の流れは、社会を大きく変化させることとなった。これらの変化の主な要因として考えられるのが、大企業の登場である。この授業では、企業と私たちが直接かかわる身近な問題から入り、企業と社会とのかかわり、企業活動の本質などについて解説する。なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時、テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げていきたい。</p>
簿記論	<p>週2回の授業があるので、基本的には、週の最初の時間は基本的な内容について簿記の原理解説を行う。次の時間に解説した内容に関連する問題を解き、知識の定着を図る。</p>
数理論理学	<p>情報科学に不可欠な有限数学の理論的な基礎を理解することを目的とする。その過程で数学の記号の中で重要なものを取り上げそれを理解し使える数学的教養を身につけ、科学的思考の態度を学ぶ。</p>
プログラミング I	<p>コンピュータを使って実現できることやプログラミング言語の特徴や歴史などプログラミングの基礎知識(前半部分)を学ぶとともに、課されている問題の解決手段としてのプログラミングの処理や制御など技法の獲得や論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミングの基礎の確立を目指します。授業は基礎となる知識や理論・方法を説明する講義と、C言語を使った演習を併せて行う形態で行います。この科目は『プログラミングⅡ』へ接続します。</p>
<p>プログラミングⅡ 担当者名:西田 悦雄</p>	<p>プログラミングの基礎知識(後半部分)を学ぶとともに、課されている問題の解決手段としてのプログラミングの処理や制御など技法の獲得や論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミングの基礎の確立を目指します。授業は基礎となる知識や理論・方法を説明する講義と、C言語を使った演習を併せて行う形態で行います。また、よりよいプログラミングのためのデータ構造やその応用などにも触れます。</p>

◇経済情報学科 主要科目の特長

科目	特長
<p>プログラミングⅡ 担当者名:森下 博</p>	<p>この授業では、プログラミングⅠの基礎を踏まえて、より幅広いプログラミング技法を身に付けることを目標とします。自らの考えを記述できる表現力と、正確に実行できる技術力を身に付けます。知的好奇心をもった取り組みの姿勢が重要です。</p> <p>プログラミングを行うことの意義を明確にし、解決手段の一つとしてプログラミング言語を自由に扱うことができるように学習していきます。まず、C言語の出力、演算、入力、条件分岐、繰り返しといった文法を用いて、基礎的なプログラムを組めるかどうかの確認をおこないます。そして、C言語の配列、関数、ポインタ、構造体、ファイルの入出力といった文法を確実に習得していきます。その理論を理解するとともに、コンピュータを活用し、目の前で確認しながら演習を進めます。最終的には、実行したい内容を正確に記述できる力を身に付け、これまでの文法を活かした発展的なプログラミングが組めるようにします。最終的に、ファイル操作と検索を含む実践的な課題制作をおこない、この授業の集大成にしたいと思います。</p>
<p>情報システム学</p>	<p>情報システムは高度化する情報社会に欠かせない存在であり、コンピュータやネットワークといった情報技術の側面からだけでなく、情報技術を利用するという側面からも理解する必要があります。前半は、情報システムとは何かという一般論からはじまり、さまざまな社会活動における情報システムの利用についての基礎を学習し、情報システムの全体像を大所高所から理解することを目標とします。後半は、複雑で大規模な情報システムの開発で重要となるソフトウェア開発について学びます。開発に必要な工学的な手法を「ソフトウェア工学」と呼びます。ソフトウェア技術者が最低理解しておかなければならないソフトウェア工学の基礎知識を習得します。授業方法は、週2コマのうち、1つを講義中心、もう1つを演習中心とする。</p>

◇経済情報学科 主要科目の特長

科目	特長
フィールドワーク	<p>地域デザインコースの入門演習。学外に出て、屋根のない教室で学ぶ。地域の事象を自分の足と目で直視し、自分の頭で考える。そこに何かを発見する。そこには地域の財産や宝物が見つかるかもしれない。また、とっておきのストーリーや歴史を探しあてることができるかもしれない。地域デザインコースの学の立ち上げがここから始まる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の最初と最後は、受講生全員集まって授業ガイダンスとまとめをする。</li> <li>2. 授業は、受講生を5つのグループに分け、5人の担当者のフィールドワークをローテーションシステムで授業展開する。</li> <li>3. 5人の担当者のフィールドワークの概要は以下のとおりである。  「いなみ野台地とため池と農の体験ツアー」(池本)  「～中心市街活性化策を探る～」(瀧本)  「ローカル放送の時代:FM寺田池の挑戦」(木下)  「古い街の『感動スポット』を探求しよう」(金子)  「人権問題の歴史と現状」(岡本)  ※上記各概要に関するの詳細は、別途配布する冊子で確認して下さい。</li> </ol>
地域分析論	<p>統計的な分析手法を理解し身に付けるとともに、地理学の考え方についての知識を身に付けることがこの授業の狙いです。地域分析の方法は多数ありますが、この授業では数字を使つての分析が中心になります。分析の基本となる横断的分析や時系列分析の意味や統計的な分析手法を学びます。統計的な手法では、実際の地域経済統計を用いて、比率や特化係数の算出、回帰分析などを学びます。これらは地域分析以外にも他に応用することができます。またこの授業では地理学の一部として、立地理論を中心に学びます。地域の構造を考える上で重要な考え方となっています。さらにGISを学びます。コンピューターによる地図解析です。</p>
人と地域	<p>個人が所属する、各レベルの共同体の発生と、共同体内の諸原理を考えます。それらの原理により、人間が如何なる行動をとるか、を考えましょう。難しく表現すれば、共同体論と政治過程論とを扱います。</p>
地域デザイン論	<p>地域をデザインするための様々な基礎的な理論と現実について講義します。また、「地域づくり・まちづくり」について学び、さまざまな局面での地域デザインの手法も学びます。</p>